



おすすめ品種紹介 第1回

全農アグリ情報室では、近年上市された野菜の品種について、種苗会社へアンケートを実施しました。担い手生産者向けのおすすめ品種を、毎号1品目6品種（計12品目72品種）紹介いたします。

ブロッコリー

第1回目は、食卓を彩る野菜として人気の高い「ブロッコリー」。国内の平成30年産作付面積は15,400haで、5年前（13,700ha）と比較して112%に増加しています。輸入量については、冷凍ブロッコリーの伸びが顕著であり、平成25年産の34,441 t から平成30年産の57,330 t と167%に増加しています。ブロッコリーは今後も堅調な需要が期待できる品目です。

耐寒性のある晩生種



全緑 174
朝日工業株

一般地の1月に良品が出荷できるアントシアレス品種。定植後95～130日前後で収穫。草

姿は超コンパクトで作業性に特に優れる。花蕾は濃緑色。収穫期まで花蕾が葉に覆われているため低温による障害や病気が少ない。

栽培のポイント

肥培管理は、基肥から効かせて初期からしっかり草勢をつくと同時に、収穫時期まで肥効を切らさないようにする。リーフィーの発生を防ぐため、窒素過多の栽培は避ける。気温により生育が進むため、収穫遅れに注意する。

アントシアンフリー中生種



こんにちは
株サカタのタネ

播種後105～110日で収穫できる中生品種。アントシアンフリーで低温伸長性に優れる。花

蕾は小粒、濃緑色で極ドーム型。草勢が強く、草姿は立性で花蕾形状の安定性が高い。

栽培のポイント

遅い作型では低温で肥料が効きにくいいため、基肥の割合を高め、早めに追肥を行う。近年、ブロッコリー栽培において細菌病やカビが原因となる病気の発生が多くなっている。病気が発生しやすい圃場では、予防的な防除を徹底する。

品種	作型	地域	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
全緑174	秋冬どり	冷涼地																	○	○	▼	▼					■	■	■	■	■	■						
		中間地	■	■	■	■	■	■															○	○	▼	▼									■	■		
		暖 地	■	■	■	■	■	■	■																○	○	▼	▼									■	
こんにちは	秋冬どり	中間地																					○	▼								■	■	■	■	■		
		中間地	■	■	■																			○	▼											■		
		暖 地																						○	▼								■	■	■	■		
		暖 地	■	■	■																				○	▼										■		
こんぱんは	冬どり	中間地	■	■	■	■	■																○	○	▼	▼												
		暖 地		■	■	■	■	■																	○	○	▼	▼										

○：播種 ▼：定植 ■：収穫



こんばんは
(株)サカタのタネ

アントシアンフリー晩生種

播種後150日
前後で収穫でき
る晩生品種。ア
ントシアンフリ
ーで低温伸長性
に優れる。花蕾

は小粒、濃緑色で極ドーム型。草勢が強く、草姿は立性で花蕾形状の安定性が高く厳寒期でも肥大力がある。

栽培のポイント

栽培期間が長く厳冬期の収穫となるので、肥沃な畑を選び、生育後半に肥料を切らさないように管理する。組織内べと病が発生する場合もあるので、湿気の溜まりやすい圃場を避け、通気性を確保し、予防的な防除を心がける。



夢ひびき
ナント種苗(株)

強靱な根を持つ極早生種

夏まきでは約
85日で収穫と
なる極早生種。
春まきではボト
ニングの発生が
少なく品質が安

定する。花蕾は濃緑色のドーム型で、締まりがよくピーズも細かい。草姿は立性で、根が強靱で根傷みにくく環境適応性に優れている。

栽培のポイント

肥料切れや急激な気温低下では、アントシアンが発生するので注意が必要。秋冬作では、頂花蕾収穫前後に追肥を行えば、約30日で太い側花蕾が4本前後収穫できる。



クリア
(株)プロリード

アントシアンフリー良形質花蕾

播種から収穫
までが145日程
度(中間地8月
下旬播種)の晩
生種。花蕾は濃
緑色でボリューム

ムがある。品質・形状が安定し、秀品率が高いアントシアンフリー種。上部の葉の包葉性が強く花蕾が寒さから守られる。

栽培のポイント

極端な早まきや収穫時期の前進化で茎が太くなり、花蕾の粒が少し粗くなる傾向があるので適期栽培を行う。アントシアンフリー種は肥切れにより花蕾の緑色が薄くなる場合がある。収穫まで肥効を切らさないよう心がける。



緑竜
(株)プロリード

根こぶ病に耐病性の中早生種

播種から収穫
までが105日程
度(中間地8月
中旬播種)の中
早生種。根こぶ
病に耐病性を持

ち、花蕾は重量感のあるドーム型で締まりがよい。草姿は半開張性で根張りがよい。

栽培のポイント

吸肥力があるため、高温時の多肥栽培では茎の空洞化や蕾粒が不揃いになるなど、異常花蕾が発生する場合がある。早まきや多肥栽培を避け、適期栽培を心がける。厳寒期は花蕾にアントシアンが着色する場合がある。

品種	作型	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
夢ひびき	初夏～秋どり	冷涼地			○	▼	○	▼	■	■	■			
		中間地		○	▼	▼	■	■	■	○	▼	▼	■	■
		暖地	○	○	▼	▼	■	■	■	○	○	▼	▼	■
クリア	冬どり	中間地	■	■	■	■	■	■			○	○	▼	▼
	冬どり	暖地	■	■	■	■	■	■			○	○	▼	▼
緑竜	秋冬どり	中間地								○	○	▼	▼	■
	春どり	中間地		○	○	▼	▼	■	■					